

掛け軸を守るために

掛けっぱなし、しまいっぱなしはよくありません

掛け軸を掛けっぱなしにされると、裂地を痛めるだけでなく、作品に使用されている絹や和紙の成分を弱めてしまいます。この成分が弱くなりすぎると、仕立て替えが困難になる場合もございますのでご注意ください。しまいっぱなしは湿気を含み、シミの原因となってしまいます。掛け軸は一年に一回は出していただき、桐箱にしまっていただくのが一番です。しまわれる際には、必ず天気のよい乾燥した日を選んで下さい。虫干しを毎年行うことにより、掛け軸の保存ができ、作品への親しみや愛着が増し、一家の家宝となっていくのです。

風帯は折り込んで巻いて下さい

風帯を下がったままそのまま巻きこんでしまいますと、風帯が丸かってしまい、次回掛けさせていただく時に大変見苦しくなります。必ず上部半月付近で折り込んで巻いてください。

強く巻きすぎにご注意ください

掛け軸を強く巻きすぎると、シワや折れ等の、作品や裂地の痛みの原因となります。巻いていただいた時に軸先が手で簡単に回せる程度に緩く巻いてあげてください。

虫除けにナフタリンや樟脳(しょうのう)は厳禁です

ナフタリンを桐箱の中に入れたまま長期間保存されると、シミの原因となります。また樟脳は裂地等に使用される金属と化学反応を起こし、黒ずんしまう原因となります。必ず専用の防虫香をお使いください。



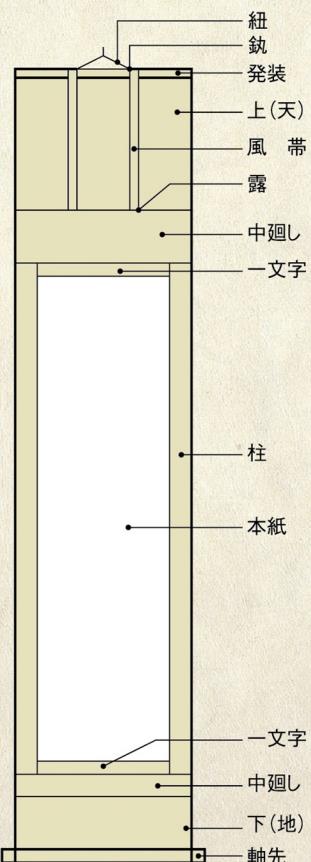
きつく
しめないで!!

風鎮の使用について

風鎮は(かぜをしめる)と書きますように、暑い季節になると室内の暑さを防ぐために、室内を清掃する時に、障子や戸を開けて外の風を取り入れます。それによって床の間に飾ってある掛け軸が風にあおられまれ上がったり、軸先が床の間の壁を傷つけたりします。風鎮はそれらを防ぐための「重り役」です。又、風鎮の掛けっぱなしは大切な掛け軸を痛める原因となり、掛け軸を長持ちさせるには風鎮を使わないで飾ることです。

セロテープ、ガムテープの使用は厳禁です

少し破れているからといって、セロテープやガムテープで補修されるのはおやめください。セロテープの糊の汚れは仕立て替えをしてもきれいに取れませんので、そのまま作品に残ってしまいます。破れ等を発見された場合には一度ご相談ください。



●お問い合わせは

創業明治10年

(有)文林堂本店

熊本県熊本市中央区新町2-7-16

TEL 096-355-0274 FAX 096-355-0275